

はばたく群馬の指導プラン推進校 公開授業研修会



平成31年1月31日(木)
太田市立葦川小学校



新学習指導要領より
主体的・対話的な深い学び

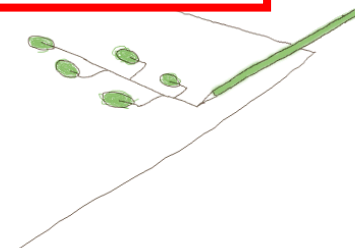


群馬県学校教育指針より(H30)

知識・技能を活用する力を伸ばすための取組の充実



はばたく群馬の指導プランおよび実践の手引きより
知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成



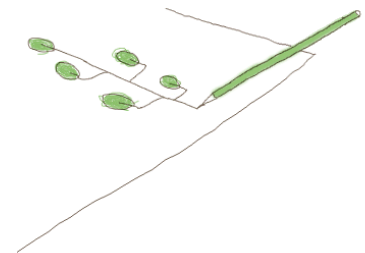


はばプラに基づいた授業

➡ 主体的・対話的で深い学び

解決へ向けてのヒントの提供

- ・主体的・対話的で深い学びの授業ってどう組み立てればいいの？
- ・授業改善を実現するには？
- ・組織的に研修を推進するに？



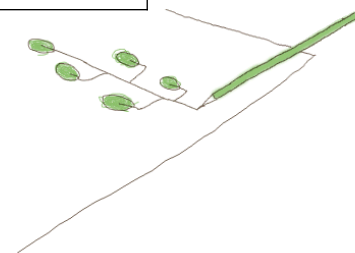


<勤務形態・勤務内容>

- 再任用教員(週:19時間22分30秒勤務)
授業参観・指導助言・示範授業・
TT授業・教材研究

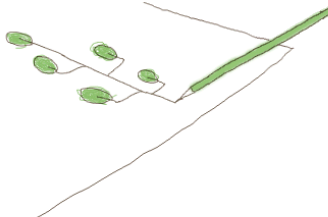
●国語担当 ▲算数担当

	月	火	水	木	金
午前	▲	●▲	●▲	●▲	●
午後				▲	●





<基本的な考え>

- 校内研修(算数)の中に算数は位置づけ
 - 校内研修は全体の方向性や計画を実施
 - 各学年で、国語も算数も授業改善
 - 学級担任全員が授業を公開
 - 公開授業(1月31日)の教科は、本人の希望を優先し、学年で偏りがないようにする。
 - 全学級に、国語も算数も指導(個別支援)
- 

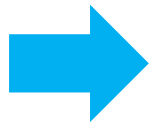


<教師の様子>

- まじめ、協力的
- 教師主導型が多い
- 指導力の差が大きい
- 本校に今年度赴任
(6人)

<児童の様子>

- 素直で明るい
- 発表する児童は固定
- 受動的
- 配慮の必要な児童が各
学級に見られる
- 学年差、学級差がある



教師の授業力を高めること
それが、児童の学力を高めることになる。





<研修主題>

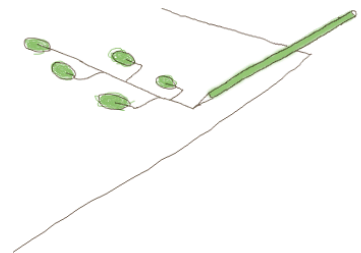
自ら考えをもち、表現できる児童の育成
～算数科における

伝え合う活動を充実させる指導の工夫～

算数科における言語活動に視点を当てる



児童の思考力・表現力のさらなる育成を目指す



チェックリスト

重点項目



チェックリスト

できるだけ正直に答えましょう。

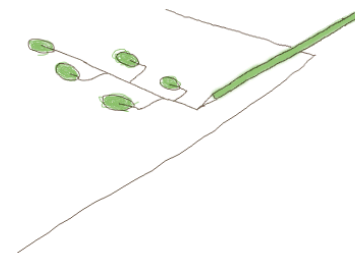
A: いつもできている B: だいたいできている C: 時々できている D: ほとんどできていない

5月	7月	10月	12月	項 目
				1 あいさつの前に、ノートを開き、下敷きを入れ、縦線や日付を書かせている。
				2 問題文やめあてを、教師は言いながら書き、児童と同時に書き終えるようにしている。
				3 問題文に、「わかっていること」、「もとめること」に印を入れさせている。
				4 すぐに正解に飛びつかない。えっ、どうして、本当？など問い返している。教師はコーディネーター。
				5 既習事項と比較し、「問い」を児童から引き出し、めあてを決めている。
				6 解決方法の見通しをもたせている。
				7 自力解決では、5分～10分以内と時間をかけすぎない。
				8 解決方法を、図(数直線を含む)や式・言葉で表させている。
				9 1つの方法で解決できたら、他の方法を考えるように促している。
				10 自力解決のときに解答内容を把握し、指名計画を立てている。
				11 ペアやグループで考えを説明し合う。
				12 学習規律(話し方・説明の仕方・聞き方)の指導をしている。良いことは褒めている。
				13 同じ考え方でも複数の児童に説明させたり、途中から説明させたり、多くの児童の活躍の場がある。
				14 図だけ、式だけ表示して考えを推測させている。図や式、言葉を関連させている。
				15 根拠(定義や公式、大事なこと、算数用語)を使って、説明させるようにしている。
				16 本時のねらいに結びつく観点から、それぞれの考えのよさや違いに気付かせている。
				17 「まとめ」を児童に尋ねながら板書をしている。
				18 交流や自己決定の場面が1時間の中に数回設定している。
				19 本時のまとめを使って、練習問題を解かせている。
				20 振り返り(感想など)を書かせている。
				21 既習事項(定義や公式等)、振り返り等のノートを掲示(算数コーナーなど)している。
				22 本時のねらいを明確にしている。教師自身の言葉で言える。
				23 教科書を活用している。(最初から使わない教科書を使わなくても落ちなく教えられる。
				24 ノート指導をしている。ノートや宿題のチェックをしている。
				25 マイノート(児童と同じもの)を作成している。
				26 板書計画を立てている。
				27
取り入れるねらい				学習指導について、自分の課題を明らかにするとともに、今年度の指導力の向上を実感できるようにするため。



研修経過

- 5月17日(木) 算数模擬授業
- 6月15日(金) 前期指導主事訪問
- 7月20日(金) 算数模擬授業
- 8月24日(金) 国語模擬授業
- 11月9日(金) 後期指導主事訪問
- 1月 7日(月) 指導案検討(1回目)
- 1月15日(火) 指導案検討(2回目)
- 1月31日(木) 公開授業

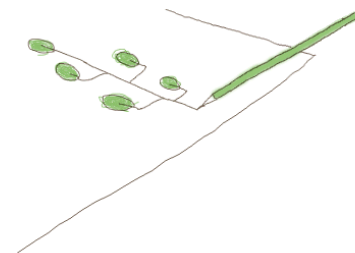


<取組の様子>

前期指導主事訪問



後期指導主事訪問





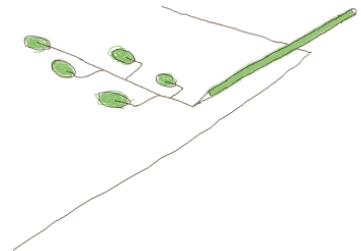
<研修の成果>

児童(算数に関するアンケートから)

- ・自分の考えを友達に伝えることができる。
- ・考えを話すときには、根拠を話すようにしている。

教師(チェックリストから)

- ・自分の授業の改善点が見えた。
- ・授業の進め方の新たな手法を知ることができた。



校内研修全体会 4月6・17日 はばプラの授業って？

- ・はばプラを詳しくは読んでいない。
- ・内容は理解できるが、具体的にイメージをもてない。
- ・交流の仕方、全員参加の授業イメージが分からない。

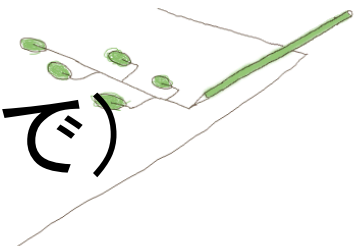
つまり、授業に巻き込む、授業中に遊ばせない、
暇な時間を作らない。そんな手立ては？

疲れた。もう終わったの。もっとやりたい。簡単。どうやるかわかった。

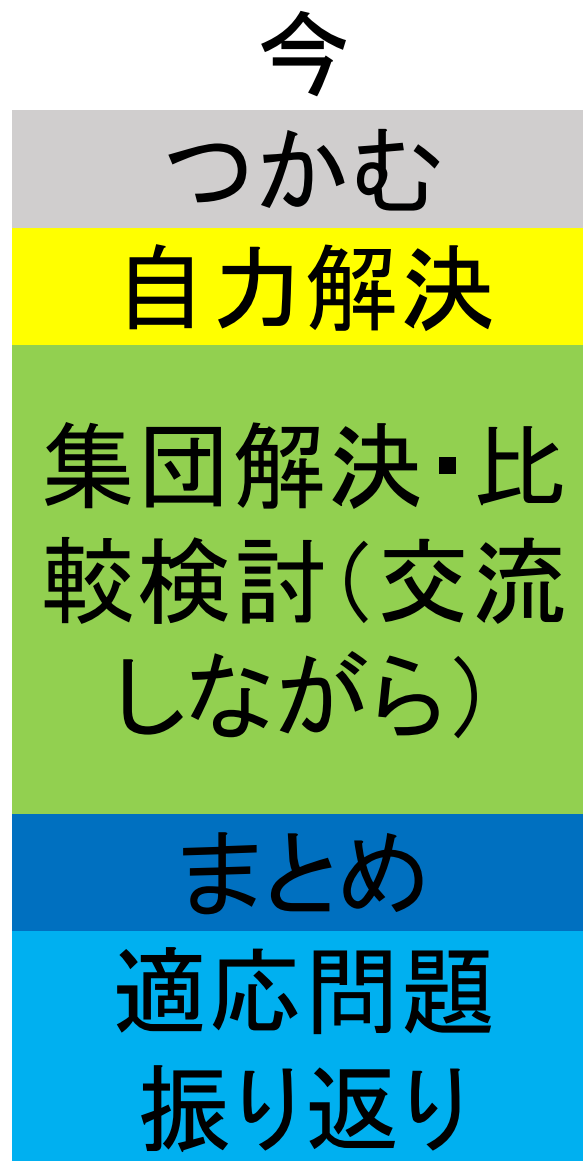
あの考え方に気づいたなんてすごい。おもしろかった。楽しかった。



算数模擬授業・解説(先生方を対象)

- ・5月17日 3年「わり算」
 - ・7月20日 5年「四角形の内角の和」
 - ・対話のある授業のイメージづくり
 - ・全員参加のために
学習規律
交流、指名、発表のさせ方、自己決定
根拠を使っでの説明
 - ・新旧学習指導要領の比較
- 6月15日 指導主事訪問(6学級で)
- 

1時間の学習活動の例



全員参加の時間を増やす。テンポよく。

チェックリスト

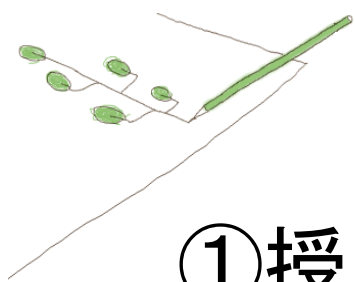
できるだけ正直に答えましょう。

A:いつもできている B:だいたいできている

C:時々できている D:ほとんどできていない

指導の目安
向上の手応え
課題の明確化

5月	7月	10月	12月		項目
				1	あいさつの前に、ノートを開き、下敷きを入れ、縦線や日付を書かせている。
				2	問題文やめあてを、教師は言いながら書き、児童と同時に書き終えるようにしている。
				3	問題文に、「わかっていること」、「もとめること」に印を入れさせている。
				4	すぐに正解に飛びつかない。えっ、どうして、本当？など問い返している。教師はコーディネーター。



- ①授業が始まる前にノートなどの準備
- ②始業のチャイムで始まる。

1 つかむ

- ③問題を提示する。

些細なことでもほめる。
繰り返す。
学習訓練

→「めあて」を書き、教科書の問題を読む。
問題を書くのに時間がかかる。



問題を教師が言いながら書く。すぐに、
机間指導し、教師と同時に書き終える。

スタートラインをそろえる・全員を巻き込む



1 つかむ

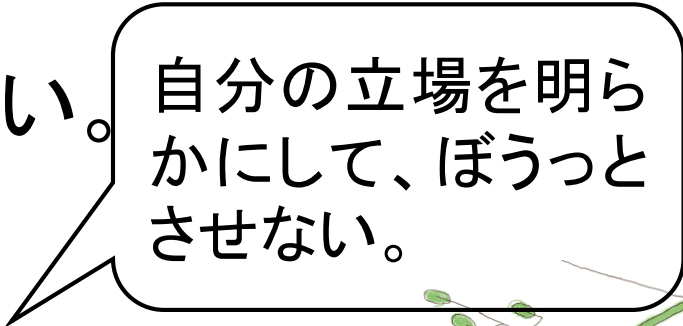
④ 「めあて」を**児童とともに**考える。



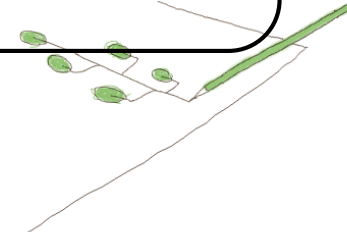
- 前時の学習、既習事項から類似点や相違点を見つけ**児童とともに**つくる。
- 見通しをもたせる。
- 結果の予想をする。

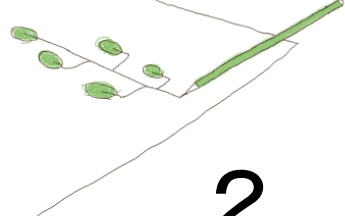
自己決定も取り入れたい。

- 3択
- ハンドサイン
- 分かったら座る。できたら立つ。



自分の立場を明らかにして、ぼうっとさせない。



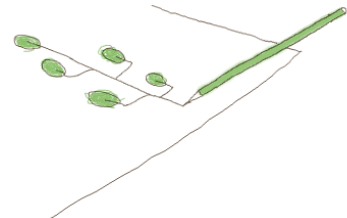


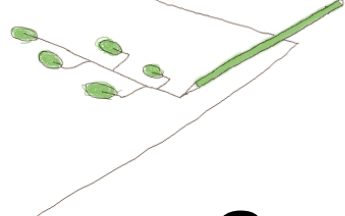
2 自力解決・・・短時間で ⑤見通しをもって取り組む



式・図・言葉をセットで考えさせる。
ノートを見る、ヒントをもらう。
児童の解答の様子を把握する。
指名計画を立てる。

教材研究や掲示物の準備を整え、数直線などの図を自力でかけるようになったら教科書を使わず(見ないで)取り組ませたい。





3 集団解決・・・時間の確保

⑥複数の考えを発表する。

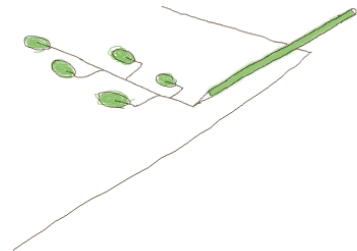
→ 教師

- ・正解に飛びつく。
- ・教師が補足説明する。

できた人？
わかった人？

 教師はつなぎ役に

- ・正解に飛びつかない
「えっ？ほんと？絶対？」
「だって、……」を引き出す。
- ・児童に説明させる。



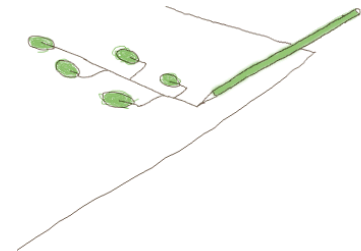
3 集団解決・・・時間を確保


⑥複数の考えを発表する。

➡ 数学的な考え方を育成には大事

- ・同じ考えでも**複数の児童**が説明
- ・図や式のみを板書して、考え方を**推測**
- ・言葉で説明させ、式や図を**推測**
- ・図や式、考え方の一部から**続きを推測**
- ・**ペア**で説明→分かったつもりをなくす
- ・途中で**区切って**確認する。→全員に確認
- ・**うなづき**ながら聞く。
- ・説明の**例**を示し、練習→慣れ
- ・**算数用語**で説明→活用へ

はばプラ実践編p35参照






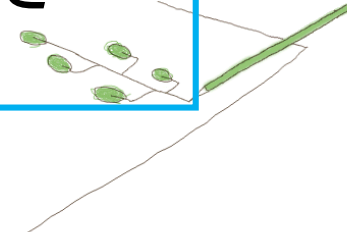
3 集団解決・・・時間の確保

⑦それぞれの考えを視点を持って
比較・検討する。

→ 時間がなくなって、教師が結論を言う。



それぞれの考えの似ているところ、
違うところを見つけ、よさに気づかせる。

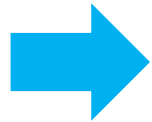
- ◆ 序列化型・・・簡潔性、明瞭性、正確性
 - ◆ 一般化型・・・相違点や共通点に着目
 - ◆ 独立型・・・それぞれの考え方の良さ
- 「はばプラ実践編」P39参照
- 



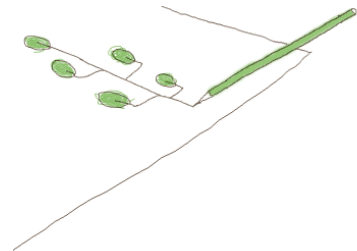
4 まとめ

⑧本時の学習の大事なことを、
児童から引き出してまとめる。

→ 教師がまとめを書き、児童が写す。



- ・児童の発表、比較・検討してでてきた
キーワードを板書しておき、
児童が自ら気づけるようにする。
- ・まとめを覚える。次時に使えるように

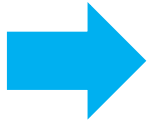




4 まとめ

⑨適用問題に取り組む。

→ 時間が足りなくてできない。次時に回す。

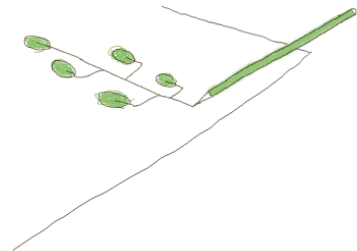


- ・本時の学習内容の理解を**確認**する。
- ・○を付けて間違いをその場で**やり直し**をさせる。
- ・間違いの多い場合は全体に説明する。

⑩振り返りをする。

自己の変容を意識させる。

次の問いにつなげる。



11月9日 指導主事訪問

- ・2年「かけ算(2)」

「 6×7 の答えをいろいろな方法で求める。」

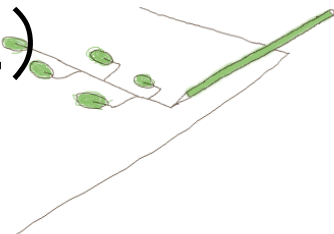
- ・対話のある授業

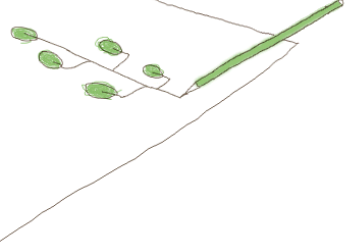
- ・全員参加

- ・自力解決・
 - ・全員が1つ以上考えたアレイ図は得意！

- ・集団解決・
 - ・算数用語を使って説明

- ・比較・検討(類似点や相違点を明確に)





感想をペアで伝え合いましょう。



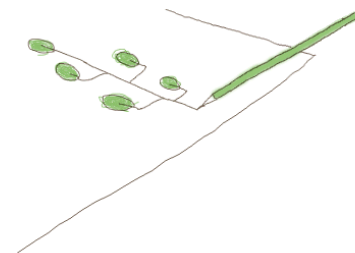


国語の取組について

わくわくドキドキする時間を目指して

授業時数(35週)

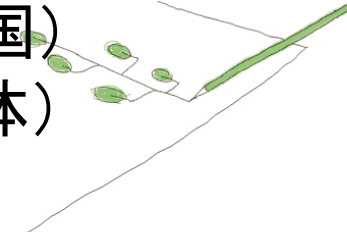
1年	9×35	315時間
2年	9×35	315時間
3年	7×35	245時間
4年	7×35	245時間
5年	5×35	175時間
6年	5×35	175時間
合計		1470時間





国語 指導経過 ①

参観をしてつかんだ実態(教師) ・・・困っていること

- ・国語の授業は苦手である。 (興味関心)
 - ・表現が残らないので、できるようになったことがつかみ
ずらい。 (話す・聞く)
 - ・支援がむずかしい。 (書く)
 - ・授業の組み立てがよくわからない (読む)
 - ・自信をもって指導にあたれる。 (伝国)
 - * ワークシートを使った授業が多くみられる。(全体)
- 



国語 指導経過 ②

参観をしてつかんだ実態(児童)

- ・国語の授業は好きでも嫌いでもない。 (興味関心)
- ・皆の前で発表するのは、恥ずかしい。 (話す・聞く)
- ・作文はめんどくさい。 (書く)
- ・授業に混ざっていない。 (読む)
- ・集中して学習に臨める。 (伝国)
- * 交流に抵抗がある。
- * 授業にかかわっていない児童が見られる。

教師の実態と児童の実態は一致している。





国語 指導経過③

1単位時間の構成をしっかりとてむだな時間を作らない。

(読みを交流させる工夫の時間確保)

復習に時間をかけるのであれば、音読をさせる。

指導内容を明確にする。

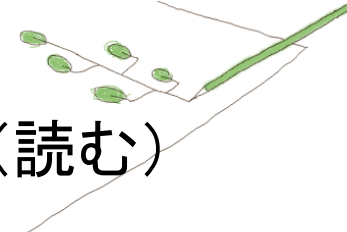
国語も知識理解をしっかりと指導する。





国語 指導経過 ④

実態をもとに、支援したこと

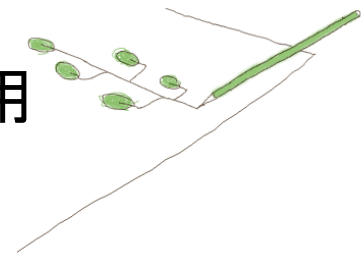
- ・教科書の学習の進め方をもとに授業を行う。
少人数の交流を積極的に取り入れる。
聞くことが学習の重要事項であることを教師が意識する。
(話す・聞く)
 - ・構成メモを考える。
 - ・条件を明確にして書かせる。
(書く)
 - ・通読する(音読を授業の中で)
 - ・1単元の全時間の指導案を提供する。
フレームリーディングを紹介する。
イメージマップの活用を進める。
(読む)
- 



国語 指導経過 ⑤

交流

- ・1時間の授業で3回は意識して取り入れる。
- ・交流の目的を明確にして交流をする。
目的
 - ①自分の考えを声にして表出するウォーミングアップ
 - ②自分の考えに自信を持たせる
 - ③全員の児童を授業に参加させる
 - ④考えを深める(考えの形成)
- ・交流を円滑に進めるために、ノートの積極的な活用

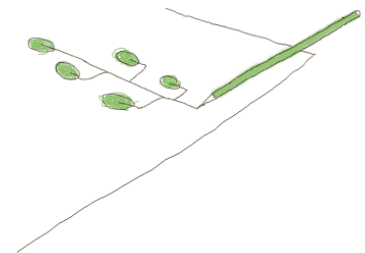


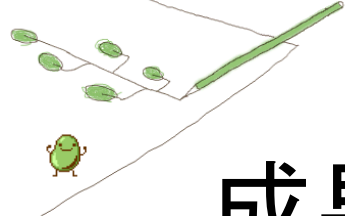


国語 指導経過 ⑥

「ここが大事」の活用

国語も知識や技術をきちんと指導する



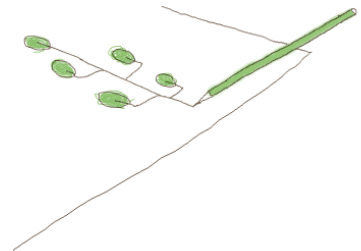


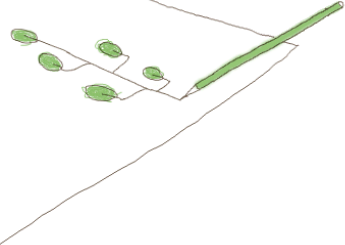
成果と課題

- ・学習規律の確立
(はばプラの授業の基盤)
- ・めあてと振り返りのある授業
- ・児童全員を巻き込んだ授業
- ・伝え合う活動の充実
- ・組織的な研修の取組




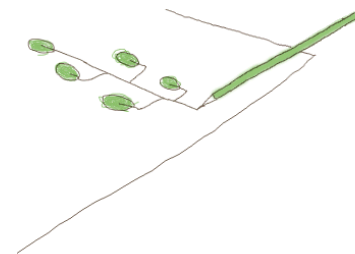
*** 学力・授業力の向上**

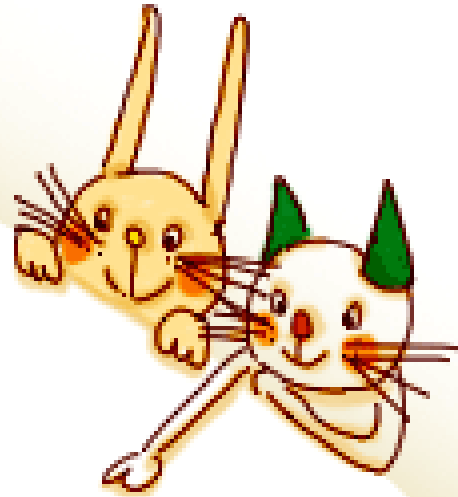




終わりに

- 1 通読
 - 2 交流
 - 3 繰り返し・追い込む・鍛える
 - 4 正解に飛びつかない
 - 5 教科書を使いこなす
 - 6 児童の変容を喜ぶ
- 





授業改善のヒントを提供できましたでしょうか。

ご静聴ありがとうございました。